

窓辺

国立科学博物館の仕事

篠田 謙一

私が勤務する国立科学博物館（通称科博）は東京の上野に本館がある。上野には日本を代表する多くの博物館や美術館があり、当館を訪れたことのある人

も多いのではないかと、思う。私も科博の職員だと言つと、「上野に勤務しているのですか」と尋ねられることがあ

る。しかし科博は上野だけにあるのではなく、実はその役割の大部分を担っているのは茨城県つくば市の研究施設で、私も普段はそこ

に勤務している。

科博の役割は何かご存じ

だろうか。一般にはあまり

知られていないが、展示だ

けではなく、自然史に関わ

る標本と日本の産業技術の

発展に寄与した標本の収

集、さらに保管と研究も大

きな役割なのだ。上野の本

館には2万点を超える標本

が展示されているが、つく

ば市の収蔵庫には470万

点余りの標本がある。公開

されているのは、科博の持

つコレクションのごく一部

だけということになる。

こういう話をすると、「なぜ

そんなに多くの標本が必要

なんですか」という質問

を受けることがある。実は

これらの標本は、日本の自

然や産業が、どのように変

わってきたかを示す直接の

証拠である。歴史家は昔の

書物を読み解いて、歴史の

中で何があつたかを知ろうとする。そのための資料は重要で、誰かが研究をしたら廃棄してもよい、ということとは絶対にならないだろう。私たちの標本も同様で、将来にわたって研究を続けるための貴重な証拠として継承されている。

（国立科学博物館副館長）

2019年
10月7日
朝刊

①「日本の自然史」を研究する意義を考察せよ。

②「日本の産業技術の発展」に寄与した標本として、思いつくものを列举せよ。

③ 将来、「研究職」に就くと想定し、自分の研究のために必要な標本を3点挙げよ。
そして、その標本を利用してどのような成果を上げたいのか、説明せよ。

年 組 名前